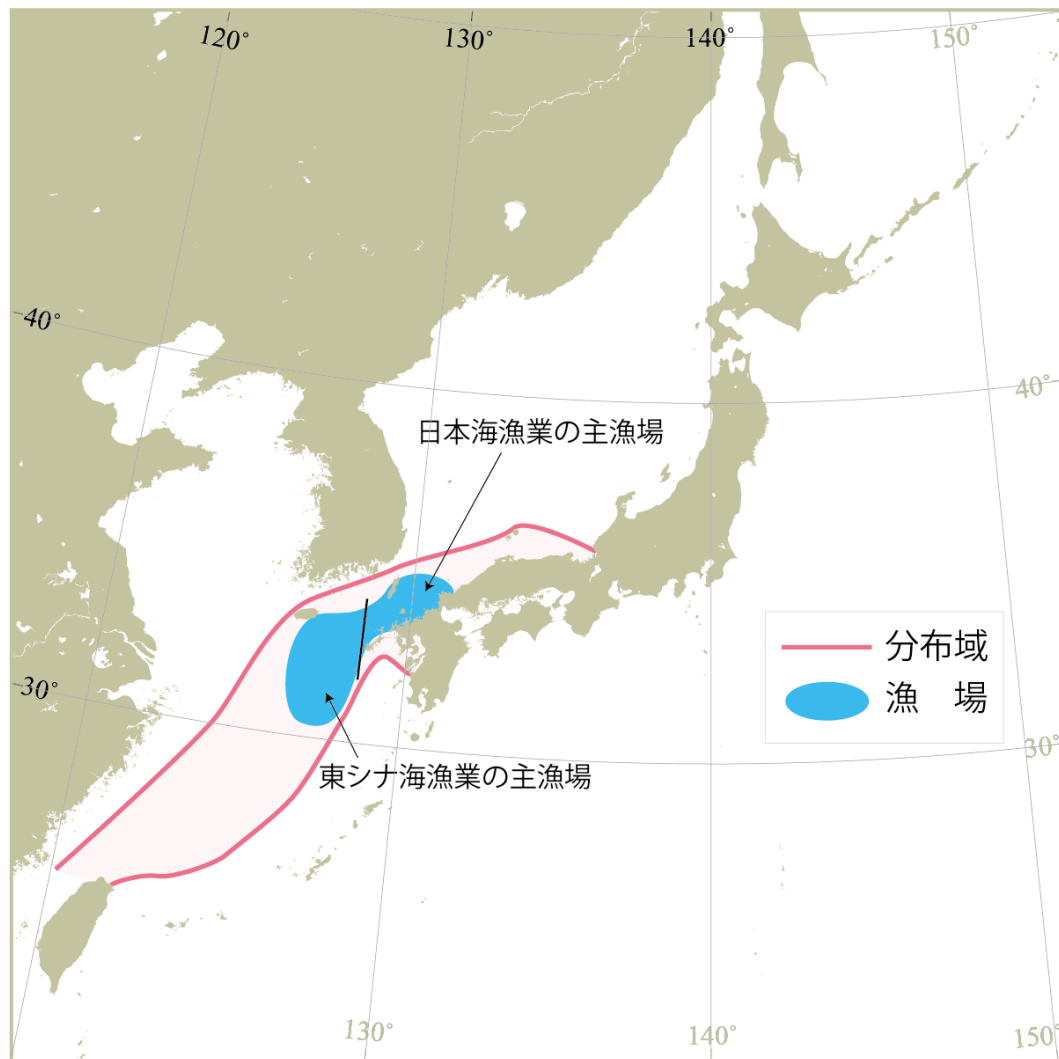




キダイ日本海・東シナ海系群 令和4年度資源評価結果

生物学的特性

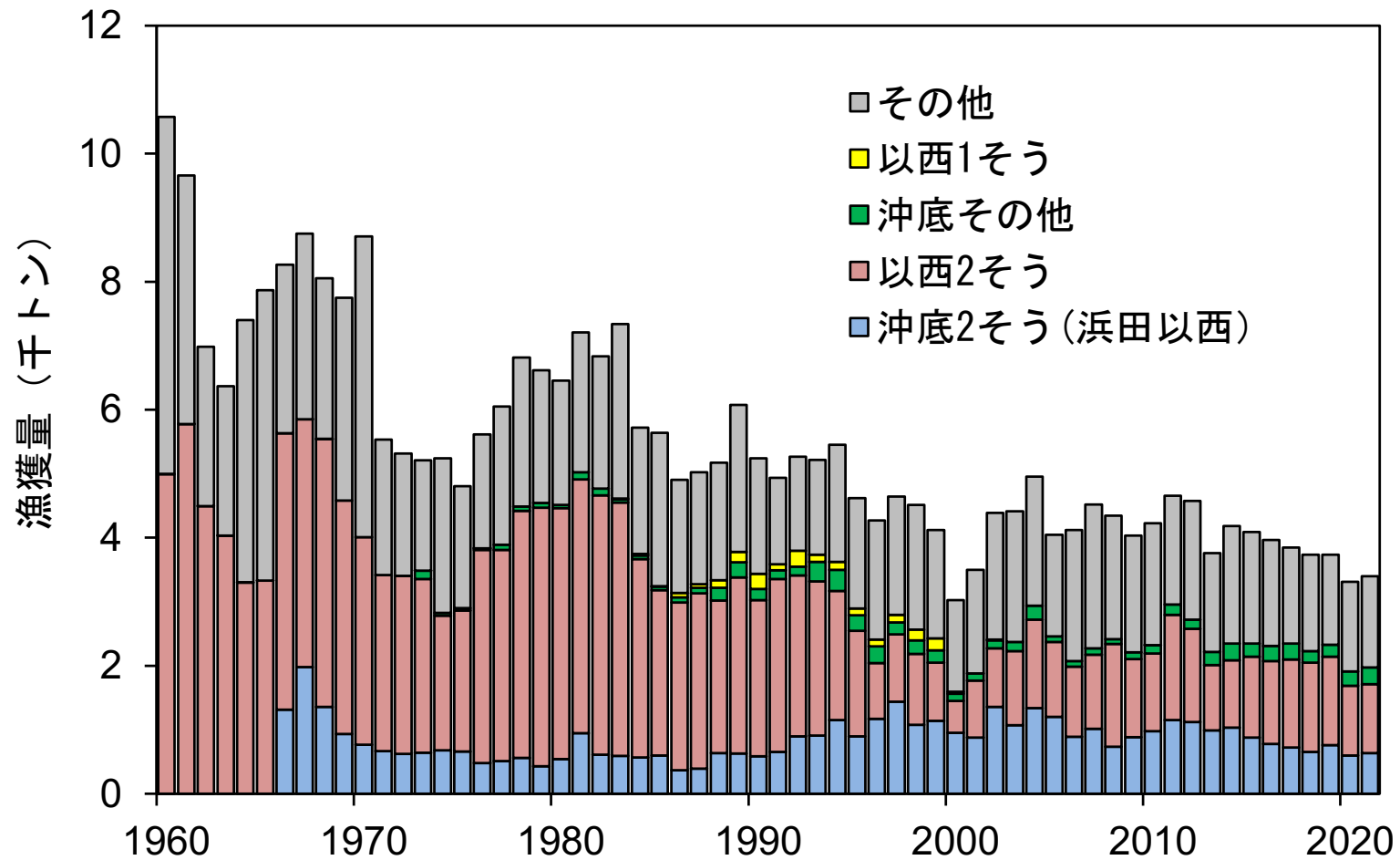


生物学的特性

- 寿命：8歳以上
- 成熟開始年齢：2歳（50%）、3歳（100%）
- 産卵期・産卵場：年2回（春季と秋季）、五島西沖～濟州島、沖縄北西の大陸棚縁辺、台湾北東の大陸棚縁辺、浙江、福建近海
- 食性：主に甲殻類
- 捕食者：不明

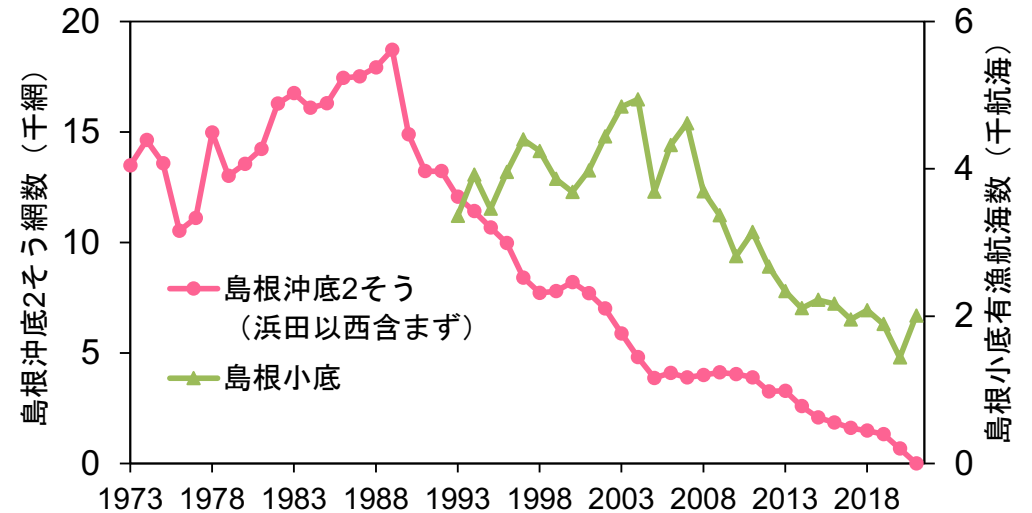
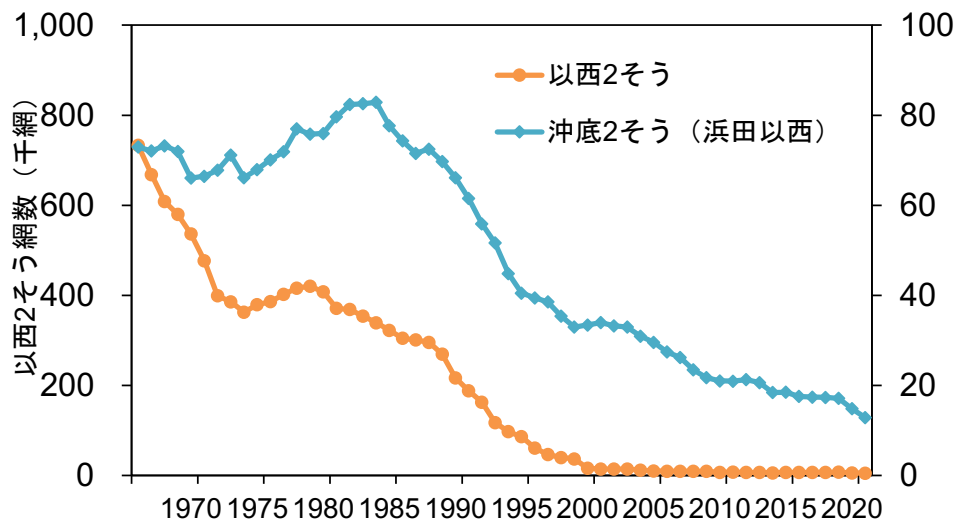
- 東シナ海では、中国・韓国漁船によっても漁獲される

漁獲の動向①



- 1960年代：7,000トン以上、近年4,000トン前後
- 2021年：3,396トン（1960年以降で3番目に低い値）

漁獲の動向②



- 以西2そう・沖底2そうの総網数は1980年代以降に減少傾向
- 島根沖底2そうの総網数は1990年代以降減少傾向
(2021年は0網)
- 島根小底のキダイ有漁航海数は2007年以降減少傾向

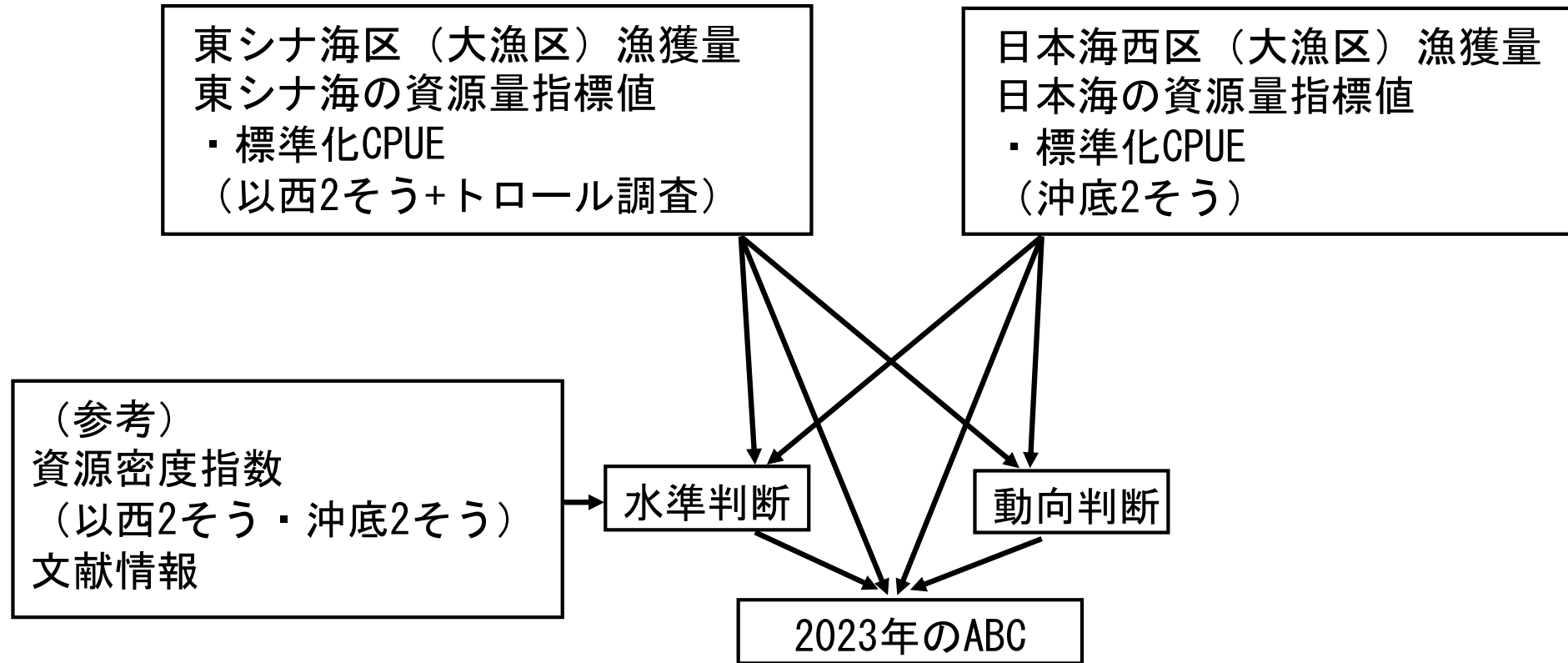
※以西2そう：2そうびき以西底びき網漁業

※沖底2そう：浜田以西に根拠地を置く2そうびき沖合底びき網漁業

※島根沖底2そう：島根県内の2そうびき沖合底びき網漁業のうち浜田よりも東に根拠地を置くもの

※島根小底：島根県小型底びき網漁業

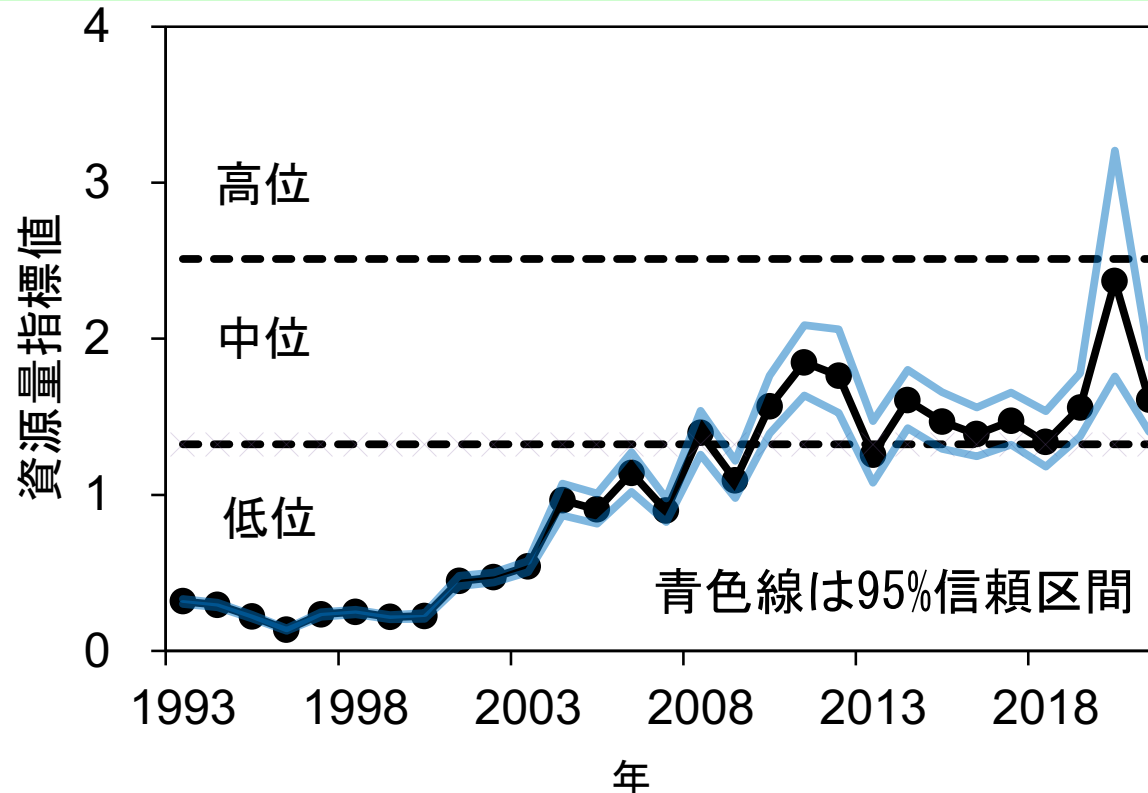
資源評価の流れ



※CPUE：単位努力量当たり漁獲量

資源の動向①

東シナ海

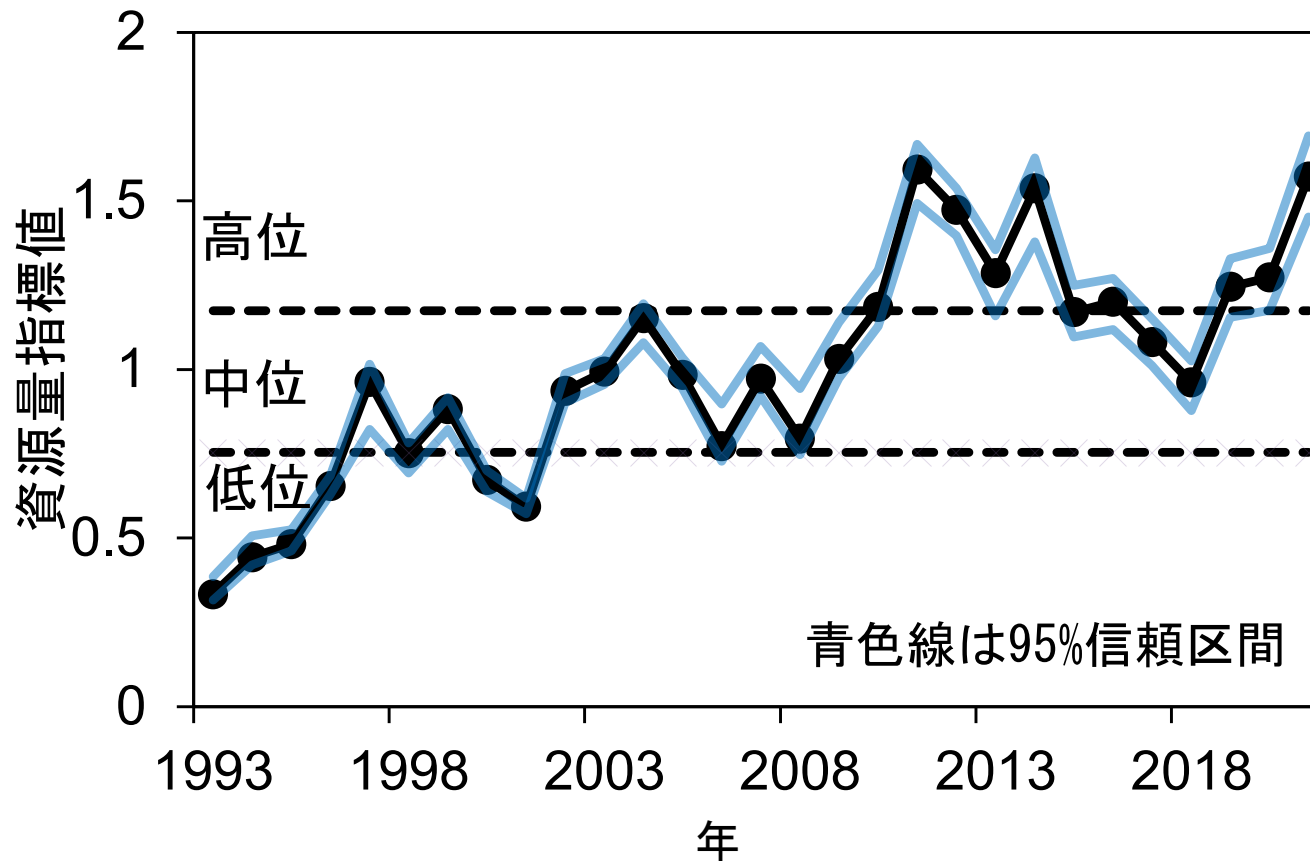


※水準区分（東シナ海） 低位／中位：資源量指標値 1.32、中位／高位：資源量指標値 2.51（2011年の資源量指標値の2倍（3.70）を歴史的最高水準と仮定した上で最低値との間を3等分して算出）

- 東シナ海では以西2そうとトロール調査のデータから求めた資源量指標値から判断
- 資源水準：2021年の資源量指標値は1.61で「中位」
- 資源動向：直近5年間（2017～2021年）の資源量指標値の推移から「増加」

資源の動向②

日本海



※水準区分（日本海） 低位／中位：資源量指標値 0.75、中位／高位：資源量指標値 1.17 （1993年以降の資源量指標値の最高値と最低値の間を3等分して算出）

- 日本海では沖底2そうのデータから求めた資源量指標値から判断
- 資源水準：2021年の資源量指標値は1.57で「高位」
- 資源動向：直近5年間（2017～2021年）の資源量指標値の推移から「増加」

資源評価のまとめ

- 系群全体の資源水準は資源の主体がある東シナ海の水準を重視し「中位」、動向は「増加」
- 資源量指標値（標準化CPUE）から資源状態を判断
- 両海域とも中位水準として算出したABCを合算して2023年ABCを求めた

2023年ABC

管理基準	Target/ Limit	2023年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値からの 増減%）
$1.0 \cdot Ct_{ECS} \cdot 1.01 +$ $1.0 \cdot Ct_{WJS} \cdot 1.12$	Target	29	—	—
	Limit	36	—	—

- ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 1.0（資源水準が中位の場合の標準値）
- Ct_{ECS} および Ct_{WJS} : それぞれ2021年における東シナ海区および日本海西区の漁獲量
- γ_1 : 1.01、1.12（資源量指標値の推移から算出）